

# 敬子先生の暮らしのヒント

このコラムはインナービューティコンソーシアムサイト様の許可を得て、2007年7月から2008年8月まで掲載されたものを転載しています。

## 第三回 私が思う理想の女性像



厳しい夏の暑さが終わり、朝夕は少し過ごしやすくなってきましたね。秋の夜長に、虫の音に耳を傾けながら、ゆったりとした気持ちでいろんなことに思いを巡らせる季節の到来です。

今回は、私の考える理想の女性について、お話ししましょう。素敵な女性というと、美しい外見をした人を浮かべますが、やはり注目したいのは内面です。

私は、割烹着を着て一生懸命お母さんをやっている人も素敵だと思うし、バリバリ仕事をこなすキャリアウーマンも素敵だと思います。女性として職業人として、こうありたいというきっちりした理想像を持っているわけではないのですが、重要だと考える三つの柱があります。

ひとつはコミットメント(人との関わり方・誓約)のしっかりしている人。

人間は、その場所その場所で、求められる役割が違いますよね。その場の状況に対応して、自分の役割はこうだからとはっきりと確認でき、その役割に徹するというのは、むずかしい。

ある時は周囲の人を引っ張っていくことを求められるし、また違う場所では先頭に立つ人をサポートし目立たないことをもとめられる時もある。多くの人は、その判断にやっぱりまよっちゃいますよね。でもその場で求められる役割を確実に果てせる人って立派だなんて思うのです。

そして、誓約という意味からは、出会った人と最初に互いに確認し合った立場を全うできる人。特に夫婦などはコミットメントを明確にし、見失わないようにしたり、ズレが生じてきた時には調整したりすることが大切に思われます。

ふたつめは、真実を追究できるひと。周りのことに惑わされないで、物事の真髄を常に見ようという姿勢を持った人です。こういう姿勢でいようと思うことは簡単ですが、現実的には、経済的なこととか我欲だとかいう目先のものに捕らわれてしまうことが多いと思います。それでも、「これが正しいな」と自分が信じるところに辿り着く人はすばらしいと思います。



みつめは、共依存性の少ないひと。100人の人が右だといっても自分が左だと思えば、それを貫いていくことのできる人

です。私の恩師が、そういう人です。彼女は、周囲の人に対して決していじわるもしないし嘘もつかない潔い人で、人間関係の中で軋轢が合ったりしても、まったく動じない人なんです。

何があっても、「私平気よ」と言ってお日様に向かって笑顔を保ってられる。それだけ親からきちっとした愛情を受け取っているし、揺るがないだけの自分に自信を持っている人なのだと思います。恩師の生き方がすごく好きで、私の中で支えになっている人なのです。

私はいつも、こういう風な女性になることができれば、素敵だなあと考えています。「こうありたい」と考える理想の女性は、人それぞれですが、一緒に日々がんばっていきましょう。



**Keiko Tsuji Special Column**